

広 報 委 員 会 視 察 成 果 報 告 書

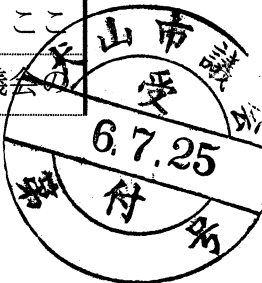
令和6年7月25日

犬山市議会議長 柴田 浩 行 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年7月19日(金) (0泊 1日)
(2) 視 察 地	東京都狛江市 (狛江市役所)
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (広報委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	犬山市議会広報委員会で継続して協議を行っている「議会の手帖」について、さらに幅広い層の市民に見てもらう、読んでもらうためにどのような対策や変化が必要なのか、大きく議会広報を刷新した東京都狛江市を先進事例として視察した。
	○タブロイド判「議会だより」から、議会ガイド「GG」への刷新
	令和3年度より議会ガイド「GG」として発行を開始した。刷新にあたっては市民モニターを起用し、先進地視察や協議を行ってきたとのことで、当時のタブロイド判について課題整理をしたところ「文字を減らしたい」、「デザインが大事」といった意見が多くあり、プロ（デザイナー）の力が必要との結論に至った。令和2年度から令和3年度では567,000円の費用増となったが、刷新後の市民の反応や、市民が参加できる特集コーナー、市民に大変興味を持ってもらえる議員全員参加の一問一答コーナーのことを考えると、有意義な増額であったと説明を受けた。なお令和2年度と令和6年度を比較すると1,803,000円の増額となっているが、これについては原材料費や人件費の高騰によるところが大きい。刷新の方向性については議論の末、20～40歳台を議会と距離のある世代と考え、ここをターゲットにコンセプトを明確化したとのことで、内容も議会の



協議内容を幅広く記載するのではなく、情報の入り口となるエントリーペーパーとして見直しを行っており、概要とQRコードがメインとなっている。ただし議会が真摯に議論していることを伝えたいという思いが強く、討論については詳細に掲載しており、文字数の多いページとなっている。この他、先に紹介した市民参加の特集ページや、議員の人となりがあると評判の良い一問一答のページ等も、明確にしたコンセプトを貫いてのことだった。

○議会ガイド「GG」の発行体制、スケジュール

広報委員会が中心となって概ね3ヶ月毎の発行をしている点、また広報委員6人体制で、各会派から参加して超党派で委員会を構成している点は、犬山市議会と酷似している。しかし特集記事や一問一答などで、申し合わせや確認事項が多いことから、議会運営委員会との連携の密度は高いように感じた。刷新当初は「まずは、やってみる」という方針で、何でも実行してみたとのこと。改善点を協議していく中で、「編集方針」が作られ、現在は、その「編集方針」に基づいて発行の準備を進めるので、広報委員会のメンバーが大きく変わっても、編集での問題が起きにくくなっている。また、編集を進めるにあたり、無料版のLINEワークスを活用しており、回数の限られる広報委員会での編集協議を大きく補完している。特集記事を持つことの負担感について質問したところ、特集記事は2人で担当し、各号毎に交代していくので負担に感じたことはないとのこと。また、特集内容について市の広報と調整するかについては、過去に調整したことがないとのことで、市と市議会では立場が違うので特集内容が重複しても同じ内容にならないとの回答をいただいた。

○犬山市議会の「議会の手帖」への感想をいただいた

事前に送付し、犬山市議会の「議会の手帖」を粕江市広報委員に見ていただき、感想をいただいた。表紙に市民から募集した写真や絵を起用する点について、市民参加をしている点はエントリーペーパー

	—に通ずると良い評価をいただいた。また、一般質問や委員会報告のページは読みやすく、税金の使い道が決まりましたのページでは写真が入っていて分かりやすいとの評価をいただいた。
	○狛江市役所視察の成果
	今回の狛江市役所視察（議会ガイド「GG」への刷新）を通じて得た成果としては次のとおり。
	犬山市議会において「議会の手帖」の改良を議論するにあたっては、狛江市議会がタブロイド判「議会だより」から、議会ガイド「GG」へ刷新したときの経緯を参考にするのは大変重要であると考え
	る。特に刷新の方向性では、年代を絞ってコンセプトの明確化をしており、これまでの読者からのご意見もあったと伺っている。犬山市議会としても、投票率向上や次世代に政治や議会への興味を持って欲しいという課題はあると認識しているが、「議会の手帖」をその観点で活用するかどうかを議論する必要があると考える。仮に活用すべきとの結論に至ったら、明確なコンセプトを作り、遵守することが必要と考える。その際には、狛江市議会広報委員よりいただいた「議会の手帖」への感想を素直に受け止め、犬山市議会の広報として良い部分を失わないようにしたい。
	「議会の手帖」改良の議論の有無にかかわらず、狛江市議会に習い「編集方針」を定めることは、広報委員会のメンバー交代のみならず、事務局の負担軽減にもつながる可能性があることから、積極的に検討すべきと考える。
(5) 犬山市に 対する提言	犬山市に対する提言としては、犬山市議会として慎重に協議し、「議会の手帖」について改良や刷新が必要との判断に至った際には、有意義な議会広報作成のため、予算への配慮をされたい。